

2024年度
福祉サービス第三者評価 結果報告書

社会福祉法人 こうほうえん
認可保育所
岩淵保育園

評価機関：特定非営利活動法人 メイアイヘルプユー

目 次

	ページ
報告書表紙（公表同意書）	1
事業者の理念等（事業プロフィールⅡ）	2
利用者調査	3
組織マネジメント項目	6
サービス提供のプロセス項目	15
サービスの実施項目	20
事業者が特に力を入れている取り組み	25
全体の評価講評	26

【添付資料】

◆ 職員自己評価・利用者【保護者】調査 集計結果

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 141-0031

所在地 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ714号

評価機関名 特定非営利活動法人 メイアイヘルプユー

認証評価機関番号

機構 02 - 004

電話番号 03-3494-9033

代表者氏名 新津 ふみ子

以下のとおり評価を行いましたので報告します。



評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号		
	①	鳥海 房枝	福祉	H0301065		
	②	北村とし子	福祉	H0502037		
	③	田中 稔	経営	H1401002		
	④	岩野 一子	福祉	H1901099		
	⑤					
	⑥					
福祉サービス種別	認可保育所					
評価対象事業所名称	岩淵保育園					
事業所連絡先	〒	115-0045				
	所在地	東京都北区赤羽3丁目23番7号				
	TEL	03-3903-4995				
事業所代表者氏名	園長 中山 信子					
契約日	2024 年 3 月 21 日					
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 7 月 15 日					
利用者調査結果報告日	2024 年 8 月 15 日					
自己評価の調査票配付日	2024 年 7 月 10 日					
自己評価結果報告日	2024 年 8 月 15 日					
訪問調査日	2024 年 8 月 21 日					
評価合議日	2024 年 9 月 14 日					
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・評価担当者には、保育経験のある有資格者と保育所の評価経験者を充てました。 ・訪問調査は2日間かけて実施し、経営層の考え方を十分聞くように努めました。 ・訪問調査日の前に、評価者が保育現場を視察する日を設けました。 ・アンケート調査票の用紙では、回答者が意見等を書きやすいようにコメントを記載するスペースを広く設けました。 ・一連の評価過程で事業所が気づきを得て改善し、それに継続性が見込めるものについては評点や講評に反映させました。					

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☐ 機構が定める部分を公表することに同意します。
☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1) 法人の理念: 私たちは、地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼されるこほうえんを目指します 2) 法人の基本方針: サービス業のプロとして正しい情報を伝達し、自分が受けた保健医療福祉サービスの提供改善に努めます 3) 保育理念: 一人ひとりの発達と個性を大切にし、生きる根っこを育みます 4) 保育方針: 子どもの視点に立った保育を推進し、いつでも安心して利用できる園づくりに努めます 5) 保育目標: 心も体も元気な子ども
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） (1) 職員に求めている人材像や役割 1年目の職員に対する保育士チェックや保育士チェックリスト(10年目)および令和6年度「役割及び係分担」に明記している。 前例を踏襲することなく、園児一人ひとりにとって心地よい保育園生活が送れるように職員間で連携し、改善できるように提案できる職員集団を目指している。 また、職員が長く働き続けることのできる(子どもを育てながらも)職員集団をつくっていききたい。 (2) 職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 子ども一人ひとりは社会を担う人材であることを十分理解し、子どもたちが持っている力を引き出し、寄り添うことができる職員であり続けてほしい。 そのために、常に職員一人ひとりの資質向上に努めていき、職員全体で学んだことを共有し、保育園として保育の質の向上に努めていく組織づくりを目指してほしい。

調査対象

◆調査対象

0歳児8名、1歳児26名、2歳児27名、3歳児30名、4歳児30名、5歳児30名の合計151名の利用児の全保護者135名を対象に調査を実施した。

調査方法

◆アンケート方式

全保護者135名に対して、事業所を通じてアンケート調査票と返信用封筒を配布し、評価機関に直接郵送してもらう方法でアンケート調査票を回収した。

利用者総数

135

利用者家族総数(世帯)

135

共通評価項目による調査対象者数

135

共通評価項目による調査の有効回答者数

86

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

63.7

利用者調査全体のコメント

◆総合的な満足度についての回答のうち「大変満足」26名(30.2%)と「満足」47名(54.7%)を合わせた回答率は84.9%でした。なお、その他の回答は「どちらともいえない」8名(9.3%)、「不満」3名(3.5%)、「無回答」2名(2.3%)という結果でした。

◆日頃から事業所に対して感じている意見・要望は59名(68.6%)から寄せられ、その内容からは園の運営についての関心の高さがうかがわれます。なお、前年度から当園で行事のあり方を見直したことについては、複数名の保護者から「行事が縮小された」などの意見がありました。

◆質問項目別では「はい」の肯定的回答率が70.0%以上の項目が17項目中11項目を占めています。一方、肯定的回答率が50.0%以下の項目は、問12「子ども同士のトラブルへの対応」46.5%、問17「外部の苦情窓口の周知」37.2%の2項目でした。

◆今回の調査結果を、今後の改善に活用することを期待します。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	80	4	0	2
「はい」の肯定的回答率は93.0%で、そのコメントは「子どもには身体を動かす機会があり、できることが増えていることが有難い」「散歩やイベントの開催回数が多く、それらの体験を通じた学びがたくさんある」「さまざまな遊びや交流などの活動が、子どもの発達には大変役立っていると思う」等です。「どちらともいえない」のコメントは1件で、その内容は「午後も外遊びなどの活動を行ってほしい」です。「無回答・非該当」のコメントはありません。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	79	5	0	2
「はい」の肯定的回答率は91.9%で、そのコメントは「家では行いにくい泥遊びなど、子どもが好きな遊びを保育園ではしてくれる」「季節の行事ごとにその由来まで説明してくれている様子で、帰宅後に子どもがそれを教えてくれる」「保育園での出来事を子どもが毎日楽しそうに話してくれる」等です。「どちらともいえない」のコメントは3件で「以前のほうが日々の保育やイベントに力を入れて取り組んでいた」「活動内容はパズルが多く、偏りがある」「子どもの様子を見ていないので回答しにくい」です。「無回答・非該当」のコメントはありません。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	74	9	1	2
「はい」の肯定的回答率は86.0%で「献立の栄養バランスがよく、安心できる」「家では食べないものも園では食べているようで、何を食べたか子どもが教えてくれる」「多くのメニューが用意され、好き嫌いが少なくなるよう工夫している」等です。「どちらともいえない」では「皆が同じメニューで、個別の配慮があるとは思えないが、健康には配慮してくれている」「どのくらい食べているかなどの情報提供は不足している」「献立表はもらっているが、そもそも子どもがあまり食べない」です。「いいえ」「無回答・非該当」のコメントはありません。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	71	12	1	2
「はい」の肯定的回答率は82.6%で「今年の担任になってから戸外遊びが増えた」「土手で行う活動、行事、イベントを楽しみにしている」「土手への散歩など自然とかかわる機会が多い」「昨年度まであった活動が減ったことは残念でならない」等です。「どちらともいえない」のコメントは「今年度を前年度までと比較すると行事がかなり削減されたが、園側からの説明は不十分である」「当園はクラスでの活動が主なので、クラスの範囲を超えて広く社会とかかわりを持てる活動がほしい」等です。「いいえ」「無回答・非該当」のコメントはありません。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	60	7	0	19
「はい」の肯定的回答率は69.8%で、コメントは2件です。その内容は「園が快く柔軟に対応してくれるので、自分もルールを守ろう、できるだけ早く切り上げようと仕事を頑張れる」「電話で時間変更に対応してくれるので助かる」です。「どちらともいえない」のコメントも2件で、その内容は「電話が通じなかったり、先生によって言うことが違っていたりする」「延長保育はまだ利用していない」です。「無回答・非該当」のコメントも2件で「当日になって時間を変更したことがなく、わからない」「急な残業などで時間を変更したことはない」です。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	50	29	6	1
「はい」の肯定的回答率は58.1%でコメントはありません。「どちらともいえない」では「送迎で多くの人が入り出る時間帯には、子どもが外に出てわからないように感じる」「3歳ぐらいになると、子どもが門扉を開けられるようになることが気になる」「玄関の鍵は頑丈なものに交換したほうがよい」「安全対策については状況を把握していない」等です。「いいえ」のコメントは3件で「不審者が簡単に侵入できる玄関である。避難訓練を毎月行っているが、実際に役立つものなのかわからない」等です。「無回答・非該当」のコメントはありません。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	68	14	3	1
「はい」の肯定的回答率は79.1%で「配慮して土曜日に行事を開催しているが、日曜日の開催も検討してほしい」「年度初めに年間行事予定を伝えられるので参加しやすい」等です。「どちらともいえない」のコメントは「卒園式が平日に変更され、休日に戻してほしい旨を申し入れたが説明不十分のまま変更されない」「平日の遠足に保護者が参加することは厳しい」等です。「いいえ」では「行事が減られ、平日開催ばかりになって残念である」「近隣小学校の行事日程と被ってしまっている」等です。「無回答・非該当」のコメントはありません。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	58	23	5	0
「はい」の肯定的回答率は67.4%で「どの先生にも相談しやすい」「信頼関係はあると思えるが、話したくないと感じる職員もいる」「話しやすく信頼できる」等です。「どちらともいえない」のコメントは「写真を送付するだけで子どもの様子の報告が事足りるわけではない」「迎えのときもう少し話ができるとよい」「職員により差がある」等です。「いいえ」のコメントは「今年から登園を嫌がる回数が増え、不安に感じている」「若い先生ばかりで相談する気になれない」「園の職員とはアプリでやり取りしているが、信頼関係まではない」です。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	74	10	2	0
「はい」の肯定的回答率は86.0%で、コメントは1件です。その内容は「建物は古いが、汚いとは思っていない」です。「どちらともいえない」のコメントも1件で「建物が老朽化しているので古さを感じる」です。「いいえ」のコメントは2件で「手洗い場の足下に敷くべきマットが所定の場所になく、手を洗うと水滴が飛んで溜まってしまい、不潔である」「園内の清掃が行き届かず、ほこり、ごみが目立つ。水回りの設備などの掃除もできていないと感じる」です。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	63	19	4	0
「はい」の肯定的回答率は73.3%で、コメントはありません。「どちらともいえない」のコメントは「職員同士の話は、子どもや保護者から見えない場所ですしてほしい。特に職員が叱責されている姿は子どもに見せたくない」「上下とも黒い色の服装は、保育では子どもに与える印象がよくないのではないかなと思う」「ここ1～2年のあいだに園の明るい雰囲気なくなったように感じる」等です。「いいえ」のコメントは1件で「挨拶をしない職員がいる」です。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	68	14	4	0
「はい」の肯定的回答率は79. 1%で「自宅では受診しないけがでも、念のため受診してくれている」「職員の対応は信頼できるが、擦り傷などの少しのことで口頭だけでなく、連絡帳でも伝えてほしい」「看護師から連絡があるので、対応に安心している」等です。「どちらともいえない」のコメントは2件で「けがの際の対応が不十分と感じたので申し入れたところ、改善した」「水遊びはさせないでほしいという連絡を見落とされた」です。「いいえ」では「小さなけがでも心配なので連絡してほしい」「職員間の引き継ぎができていない」等です。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	40	22	3	21
「はい」の肯定的回答率は46. 5%で「状況を詳しく教えてくれるので信頼できる」「いさかい等の話を子どもからよく聞くが、園からの連絡内容は適切であると思う」等です。「どちらともいえない」のコメントは「子どもの人数も多く、じっくり向き合う対応は困難と思いつつも、親はそれを望んでしまう」「けんか等の出来事は、口頭だけでなく、連絡帳でも伝えてほしい」等です。「いいえ」のコメントは1件で「卒園した子どもへの当時の対応に誠意を感じなかった」です。「無回答・非該当」のコメントは「経験がないのでわからない」です。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	70	13	1	2
「はい」の肯定的回答率は81. 4%で「ほとんどの先生はそう対応してくれている」というコメントです。「どちらともいえない」では「担任は子どもの気持ちを大切にしてくれているが、たまに子どもが話しかけても適当にあしらっている感じの職員がいる」「今年度から先生が朝の挨拶を返してくれなかったり、子どもが園を嫌がるときがある」等です。「いいえ」のコメントは「子どもが時どき訳のわからないタイミングで職員から注意されている」です。「無回答・非該当」のコメントは「現場の先生の対応はよいが、そうではない職員もいる」です。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	67	14	0	5
「はい」の肯定的回答率は77. 9%で、コメントはありません。「どちらともいえない」のコメントは「自分の陰部を触っている男児に誰も注意していなかった。これは周囲にいる子どもへの影響を考えてもよくないことであると思うので、職員は早期に気づいて対応すべきである」「プライバシーを守ってくれたらよいとは思っているが、時間やスペースに限りがあるので、完全に守ることは難しいのではないかと想像している」です。「無回答・非該当」のコメントはありません。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	63	20	3	0
「はい」の肯定的回答率は73. 3%で、コメントはありません。「どちらともいえない」のコメントは「子どもの様子を詳細に話してくれる職員がいる一方で、ドライな対応にとどまる素気ない職員もいて温度差を感じる」「連絡帳に誤字があったり、変な文章であることが時どきある」「保育園の意図していることがわかれば、自宅でも意識することができる」「先生によって説明のわかりやすさにむらがある」「職員によって言うことが変わる」です。「いいえ」のコメントは「保育内容に変更があった場合の情報共有が不十分であると思う」です。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	48	24	8	6
「はい」の肯定的回答率は55. 8%で、コメントはありません。「どちらともいえない」は「慣らし保育のとき、眠っている子どもを時間だからと帰されたが、融通を効かせた対応がほしかった」「さまざまな理由でイベントの回数が減っているが、子どもの経験を増やすことを大切にしてほしい」「ホームページにも不満の受付窓口の情報がない」等です。「いいえ」のコメントは「対応してくれることもあるが、単に謝罪されて終わることも多い」「一方的に決定を伝えられるだけで、寄り添ってくれない」等です。「無回答・非該当」のコメントはありません。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	32	19	15	20
「はい」の肯定的回答率は37. 2%で、コメントはありません。「どちらともいえない」のコメントもありませんでした。「いいえ」のコメントは1件で「保護者会の説明では相談できると言われたが、相談したいと思ったとき、どこにどのように相談すればよいのかわからなかった。ちなみに、小学校の場合は定期的にプリントが配られる」です。「無回答・非該当」のコメントはありません。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ☐非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ☐非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ☐非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ☐非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ☐非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ☐非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ☐非該当
	カテゴリ1の講評	
	法人の理念や保育理念等を掲げているが、職員および保護者への周知は十分ではない 法人は理念と基本方針を定め、職員に求める姿勢なども含めて『互恵互助』と称する小冊子にまとめて全職員に配布している。さらに、法人内の保育園共通の保育理念、保育方針、保育目標も掲げている。法人は研修会で理事長自ら法人が目指すことなどを伝え、当園でも、昨年度は『互恵互助』を使って職員が気づいたことを記述させる取り組みを行っていた。しかし、今年度は取り組めていない。また、職員における理念等の浸透状況も把握できていない。なお、法人や保育園の理念等の保護者への周知が十分に行えていないため、園長はその必要性を感じている。 園長自らの役割と責任の認識は明確であるが、その表明と周知の面では十分ではない 園長級職員の責務は、就業規則や人事考課制度の「役割資格基準」で定められている。園長は就任2年目で、園外に対しては法人、行政、地域との連絡調整を主たる役割とし、園内では改善・改革を進める役割遂行が重要であると自ら位置づけている。事業計画の「令和6年度の園長の方針」欄に保育に関して職員に伝えたい事項を6項目に整理して明示し、職員には日常的に保育に関する考えなどを副園長やクラスリーダーを通じて伝えている。しかし、非常勤職員への対応も含めて、園長の役割と責任の表明と、そのわかりやすい周知という意味では十分ではない。 意思決定の体制や手順は明確であるが諸会議の目的の周知や結果共有の徹底が課題である 法人は、法人連絡会議(園長・副園長が参加)、北東京エリア戦略会議(園長が参加)を毎月開催し、当園はそれらを受けて岩淵戦略会議(総合施設長・園長・副園長・主任)、園長・副園長・主任会議、リーダー会議(園長・副園長・主任・クラスリーダー)、職員会議(園長、副園長、各クラス代表など)を開き、法人の決定事項の共有や園内の課題の検討を行っている。職員会議を最終決定の場として位置づけている。しかし、法人と園内の諸会議に関して、各会議の体制、役割、目的、参加者等の職員への明示がなく、職員会議の結果の共有も徹底していない。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
保護者会の回数増を予定しているので、保護者の意向把握がより強化されるよう期待する 保護者の意向は個人面談(年1回)や送迎時に把握するほか、保護者会の開催を今年度から2回に増やし、満足度調査(法人)や行事後アンケートも行っている。その結果は保護者にフィードバックし、職員は次年度の行事等に反映している。職員の意向は人事課面接や必要に応じて園長が個別把握し、地域の情報は区内の指定管理者や私立保育園の園長会、都内の法人内保育園の園長会で収集している。保育業界の動向は法人本部からの情報提供や業界の雑誌で確認している。保護者会の回数を増やす予定であり、保護者の意向把握がより強化されるよう期待する。 法人の方針と目標に沿って、中長期と単年度の事業計画を定めている 法人は第6次中期目標を定め、その枠組みに基づいて法人全体、各エリア、各事業所が年度ごとに「年度目標書式」と称する計画を策定し、統一的な目標管理を行うしくみである。なお、当園では「年度目標書式」を作成しているほか、それとは別に法人内の保育園統一様式の「事業計画書」を作成し、区と法人本部に提出している。これらの計画は園長が原案を作成し、職員には職員会議を通じて内容を確認するよう求めている。また、予算編成では、次年度の取り組みを考慮しながら指定管理者として区と調整しつつ、法人本部と調整しながら取りまとめている。 法人の年度目標書式によって当園の活動目標を明示するとともに、進捗管理を行っている 事業の進捗管理や目標達成のために、法人は年度目標書式に「部門としての活動」や「活動指標・目標値」、四半期ごとの「活動目標」(マイルストーン)の項目を設け、経営する各事業所、各エリア、法人全体で集約して確認している。当園もそのしくみに則って活動目標を掲げ、各々の進捗状況に応じた実績値の明示と評価(ABC)を行っている。一方、園内の具体的な業務や行事については毎年度「役割及び係分担表」で各職員の担当業務を定め、年度当初の職員会議で共有している。今年度は、この分担表の記述内容を、より具体的なものに見直ししている。		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	☐ 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	☐ 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当

	カテゴリー3の講評
	不適切保育に関する昨年度の行政からの指摘を踏まえ、計画的な取り組みを継続している 当園は不適切保育の疑いで2023年4月と6月に東京都の特別指導検査を受けた。その結果「児童一人一人の人格を尊重した保育が行われていない」と指摘され、同年8月に改善状況報告書を東京都に提出して「不適切ケア・保育ゼロへのアクションプラン」を定め、取り組んできた。取り組みの多くは今年度も継続し、相談しやすい体制づくり、エルダー制度の活用、ICT化による負担軽減、子どもの人権に関する研修などを行っている。また、家庭内での虐待への対応では、職員が日々子どもを観察し、異変を発見したときには園長まで共有するルールである。 苦情解決の体制を整備し、法人本部や行政と情報共有して迅速な対応に努めている 苦情解決のため、苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員、法人本部のフリーダイヤルで受け付けるしくみである。受け付けた内容は行政の対応窓口を含めて重要事項説明書に明示し、玄関にも掲示して周知している。保護者からの意見や苦情は、直接か行政経由かを問わず園長に集められ、副園長と協議して対応方針を決定し、必要に応じて法人本部と行政にも報告する。職員には早期に周知し、保護者に関わる内容は保育の「業務支援ツール」で共有する。また、苦情に関する情報は北東京エリア内や法人全体の園長会、東京都内の園長会でも共有している。 園だよりを地域に配布したり絵本の交換会を開催するなど地域との関係形成に努めている 透明性の向上のため、園だより『たけのこ』等を地域に各20部配布している。また、ホームページの更新も適宜行っている。ボランティア受け入れのマニュアルを整備し、中学生の職場体験や夏季には小学生も受け入れている。公益活動で昨年度から「いわぶちBookSwap」を月1回開催し、参加者相互の絵本の交換や読み聞かせにも3～4名が参加している。地域との連携では、園長会、消防署主催の行事、町会との連携を図っている。法人内の東京都内保育園の園長会では合同研修と公開保育を行い、区内私立園長会でテーマごとの勉強会も実施している。

カテゴリ4		
4 リスクマネジメント		
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	☐ 非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	☐ 非該当
カテゴリ4の講評		
リスクに備えて防災計画やBCP等を定めているが、職員への理解徹底を課題としている 当園では、対策の優先度の高いリスクとして、災害(主に水害)、乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症、子どもの事故などを想定している。特に、水害が発生した場合には、建物の上階への垂直避難を計画しているが、職員配置の少ない時間帯に災害が発生した場合にも、最善の行動を取ることが非常に重要であるとしている。そのため、防災計画、BCP(地震、感染症、水害)、安全計画を定めている。それらの計画の内容の点検は毎年度実施し、必要に応じて見直しているが「職員の理解の徹底を図る取り組みはまだ十分ではない」としている。 計画的な感染症対策や防災訓練に努めているが、当園に即したマニュアル整備が望まれる 感染症対策は、行政等から情報を得ながら看護師が職員に知らせ、園内研修のテーマにも掲げている。防災訓練は、①毎月実施の訓練(火災・地震・水害など)、②外部依頼の訓練(起震車訓練、防犯訓練、通報訓練)、③警察や消防の協力による訓練(消火器使用、交通安全、救急救命・AED研修)を実施している。なお、マニュアルは「事故防止及び事故発生時対応マニュアル」「119番対応マニュアル」「不審者対応マニュアル」などをファイルに綴じているが独自のマニュアルが少なく、出典不明のものもある。当園に即したマニュアルの整備が望まれる。 個人情報の取り扱いに留意しているが、基本的な規則や規定の理解は浸透していない 児童票などは施錠できる書庫で保管している。行政との手続きに関する書類は4年間保存し、それ以外は名簿など永年保存のものを除き、シュレッダー処分している。子どもの連絡先等の情報は持ち出さないルールであるが、病院に行く場合は報告の上でコピーを使用し、その後に処分している。電子情報は共有フォルダに保存している。法人は各職員にパスワードを付与し、業務システムへのアクセスを制限している。なお、園内の情報管理は経験則に基づく取り扱いとなっている面があり、個人情報保護や開示も含め、基本的な規則や規定の理解は浸透していない。		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー5の講評
	正職員の採否は東京事業本部が決定し、非常勤職員は総合施設長が判断できる体制である 4月採用の正職員は、東京事業本部が決定する。年度途中の採用では、就職希望者について当園から東京事業本部に情報提供し、採用につなげる場合もある。当園で非常勤職員を採用したい場合には、園長がその者の意思を確認した上で、総合施設長が最終的に採否を判断している。次年度の職員体制については、当園で必要な職員数を東京事業本部に報告し、複数回の調整を経て決定している。人事異動については、職員の意向調査を行っている。法人では、今年度「多様な働き方に対応した新人事制度」を導入し、短時間勤務の正職員を採用できるようになった。 法人全体、法人内保育園、当園でそれぞれ研修計画を定め重層的な研修体制を整えている 法人では冊子『互恵互助』に「期待する職員像」を明示している。キャリアパスについては、法人として役割資格等級基準を「職群」や「資格等級」ごとに定め、人事考課制度を通じて職員のキャリアビジョンと目標を設定し、考課面接を通じて進捗管理と評価を行う。そのほか、当園ではキャリアアップ研修への積極的な参加を促している。また、年度ごとに「法人年間教育研修計画」、法人内保育園共通の「法人保育園教育研修計画」、当園「研修計画」を定め、重層的な研修体制を整えている。なお、園内の研修計画は、園長・副園長・主任会議で決定している。 残業削減に向けて、職員体制の整備、ICT化などによる業務の効率化に努めている 昨年度から、残業削減に向けた見直しを進めている。各職員の意向を把握し、職員体制の整備として主任をクラスごとに配置した。さらに、ICT化によって手書きによる記録作業を省力化したり、行事準備の方法を見直すなど業務の効率化を図っている。職員自己評価では「残業に対する意識の変化」「残業時間が減少した」等の意見が見られる。研修成果の共有を促進するため研修報告の閲覧を推奨し、職員会議で報告している。今年度は毎月一つのテーマで園内研修を実施し、前回の振り返りを行うとともに、次回の研修テーマを設定する取り組みを行っている。

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
〔目標の設定と取り組み〕 2023(令和5)年4月と6月に東京都特別指導検査で「児童一人一人の人格を尊重した保育が行われていない」との指摘を受けたため、同年8月に改善状況報告書を提出して「不適切ケア・保育ゼロへのアクションプラン」を策定した。このプランで「職員が相談しやすい体制の構築」など3つの基本方針を掲げ、支援課題を「発生の予防」と「発生時の対応」に区分してまとめ、目標、具体的方法、担当者、実施時期を設定した。 具体的には、職員の意向把握、休憩時間の確保、ICT化の促進、行事の再検討、フロアリーダーの明確化、子どもの人権に関する学習、法人理念の共有、セルフチェックの活用などである。	
〔取り組みの検証〕 取り組みの進捗状況は毎月行政に報告した。保護者にも2回報告し、2024(令和6)年3月には職員アンケートを実施した。このアンケートでは「アクションプランを十分理解している」という回答が6割であった。	
〔検証結果の反映〕 アクションプランは年度末で終了したが、多くの取り組みは今年度も継続することとした。主任以上の多くは取り組みの意義を認識し、戸惑いながらも積極的に取り組むという意識を共有している。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 行政からの指導を契機とする取り組みであったとは言え、アクションプランを策定し、課題や取り組み内容を具体的に掲げ、その進捗状況を毎月確認しながら計画的に取り組みを進めている。 また、職員アンケートの結果も踏まえて、園長以下の幹部職員は取り組みの成果と課題を実感している。さらに、それを次年度の取り組みに反映させることに努めている。 今後も引き続き、PDCAサイクルによる計画的な事業活動を推進することを期待する。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

〔目標の設定と取り組み〕

2023(令和5)年4月の現園長の着任を契機に、当園の従前からの課題の一つであった業務改善に取り組んだ。職員からは「毎日1時間の休憩も取れない」という声もあり、また「不適切ケア・保育ゼロへのアクションプラン」にも位置づけ、取り組みを進めた。

具体的には、業務日誌の様式の見直し、緊急連絡網の一本化、全職員の休憩状況の分析、行事準備の見直し、物品発注プロセスの明確化などの取り組みである。

〔取り組みの検証〕

取り組みの結果、子どもに関する情報共有の改善、有給休暇取得に関する意識の向上、休憩時間の取り方の工夫、職員間の協力体制の改善、残業意識の変化と残業時間の削減など少しずつ成果が現われ、その取り組み状況はアクションプランの一環で毎月確認した。

2024(令和6)年3月の職員アンケートでは「しっかり1時間の休憩が取れている」との回答が6割であった。

〔検証結果の反映〕

今年度は主任を各クラスに配置し、職員に困ったことがあった際、早期に解決できる体制を整備することにした。また、ICT化をさらに推進するなど、職員が働きやすい環境づくりを目指すためにも、業務改善を一層進めることとした。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

当園の従前からの課題の一つに対し、新たな園長の着任を契機として、園長のリーダーシップのもと改善に取り組んだものである。また、行政からの指導を契機とするアクションプランの取り組み課題の一つにも位置づけて、計画的に取り組みを進めている。

特に、職員の声を踏まえて取り組みを計画化し、職員体制を整備しながら改善に取り組むとともに、職員アンケートによって職員の意識の変化も把握しながら、成果と課題の検証、次年度への反映に努めている。

今後も引き続き、PDCAサイクルによる計画的な事業活動を推進することを期待する。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリー1の講評		
園の保育方針等の情報はホームページに掲げた「重要事項説明書」で詳細に提供している 外部に向けた当園の情報提供の主媒体は、運営法人が運営・管理するホームページである。ホームページには、法人および園が目指す保育方針の柱である「生きる根っこを育む」を背景に、地域の恵まれた自然環境のなかで生き生きと活動する子どもの写真を掲載している。さらに、重要事項説明書(保育園のしおり)の全文を掲載している。説明書には、保育方針をはじめ園生活のために保護者が準備する物品や行事予定、登園・降園のルールなどまでわかりやすく記載している。また、見学申し込みはウェブ上で行えるなど、保護者の利便性にも配慮している。 リーフレットで園生活の一日の流れを知らせている ホームページのほか、保育理念・方針・目標、開園時間や一日の過ごし方などを平易な文体で表現した紙媒体のリーフレットも作成している。リーフレットは、主に見学者への説明に活用している。当園は区の指定管理者制度を活用した運営であり、区とは密に連絡を取り合っている。園長は区内の保育園長会、幼保連、子どもが卒園後に通学予定の小学校との連絡会へ機会あるごとに参加し、情報提供に努めている。また、毎月の「園だより」を近隣住宅にポスティング(20部)して園の近況報告を行うなど、園への関心と理解が高まるように取り組んでいる。 見学者には「園のありのままの姿を見てもらいたい」という方針のもとに案内をしている 園の見学会は、基本的に月2回実施する方針である。ただし、見学者の都合によって柔軟に対応している。見学者は、出産間近の保護者、卒園した子どもの就学予定先の小学校教師など、多岐にわたる。見学者への対応は園長・副園長の役割として、保育方針等を説明しながら園舎を案内する。その際、過去の子どもへの不適切対応については都・区から指導・監査を受け、現在はその改善対策に真摯に向き合っていることも説明して理解を得る努力をしている。園長は、説明者によって説明する内容に食い違いが生じないよう、マニュアル化が必要と考えている。		

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
入園内定者に「重要事項説明書」を渡し、入園面接の際に園への質問に対応している 入園内定者には前もって「重要事項説明書」を熟読してもらい、家族構成、保護者の就労状況、子どもの成育歴、健康状態など入園までの生活状況を記載した書類を持参した上で、入園時面接に臨んでもらう。面接では、保育士、看護師、栄養士、嘱託医は、それぞれの職責のもとに「面接シート」の様式に沿って必要事項を聞き取っている。把握した情報は「児童票」として記録して保管し、入園後の保育の実践に生かす。なお、クラス担当保育士は、延長保育、登降園時のルール、当園のICT化などについて丁寧な説明を行い、重要事項への同意を得ている。 入園時面接では対応する保育士ごとに差異が生じないよう様式「面接シート」を活用する 当園の保育理念・方針・目標をより具現化するため、今年度は全職員参加のもと「全体的な計画」の見直しを行った。この全体的な計画は、子どもの育ちを長期的に捉えた上で、養護・教育・幼児期末までに育てほしい子どもの「10の姿」を反映させた内容である。この全体的な計画を意識して、各クラス担任は年齢別に「年間指導計画」を立案し、さらに日々の保育に生かす具体的な「月案」「週案」を作成している。また、3歳未満児、特別な配慮が必要な子どもには「個別計画」を作成している。各指導計画は、評価・反省を経て、次の計画に生かしている。 園生活に不安を感じる保護者への対応として「なれ保育」を説明し、協力を得ている 入園説明の際には、環境変化に伴う子ども・保護者の不安・ストレスを軽減するための「なれ保育」の必要性を説明し、協力が得られるようにしている。「なれ保育」の期間は子どもの年齢・月齢にもよるが約2週間程度として「食事がとれるか」や「午睡の状況」などを目安にしている。場合によって、保護者が直接、摂食を手伝うこともある。一方、転居等による転園や卒園で支援は終了となる。子どもの卒園後も園とつながりが持てるように、卒園後1年間は「夏祭り」への案内をしている。その後も、ボランティアとして園の行事に参加している卒園児もいる。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
子どもの発達や保護者の状況等の収集した情報は記録し、職員間で共有して保育に生かす 子どもの心身の発達状況や生活の様子、保育上の留意点、保護者面談や日々の保護者とのやり取り、子どもの関心事などは、保育のかかわりのなかで把握している。把握した情報は児童票等に記載するほか、職員会議やミーティングで全職員が共有し、指導計画に反映させている。子ども一人ひとりの状況について、3歳未満児は毎月末、3歳以上児は原則4半期ごとに記録化し、成長の過程を振り返る。立案した各指導計画はクラス担当保育士間で評価・反省し、次の指導計画の立案につないでいる。指導計画(個人)は、乳児クラスでのみ、保護者に伝えている。 精度を上げた全体計画により、今年度は子どもの実態に即した指導計画を立案している 当園の保育理念・方針・目標をさらに具現化していくために、今年度は全職員参加のもと「全体的な計画」を見直した。この全体計画は、子どもの育ちを長期的に捉え、養護・教育・幼児期末までに育てほしい子どもの「10の姿」を反映させた内容である。当園では、各クラス担任は全体計画を意識して年齢別に「年間指導計画」を立案し、さらに日々の保育に生かす具体的な「月案」や「週案」を作成している。なお、3歳未満児と特別な配慮が必要な子どもについては「個別計画」を作成している。各指導計画は、評価・反省を経て、次の計画に生かす。 その日ごとの子どもの様子を職員間で報告し合った上で、保育方針を一致させている 子どもの一日の園での過ごし方やエピソードなどは、担当保育士間で共有している。特に全園で共有すべき事項は「職員会議」等で報告する。また、その日に留意する必要がある子どもの様子は、園共通の「当番用・引き継ぎノート」に記載している。子どもや保護者の状況は、クラス担当者間では日常的に、また毎月のクラスごとの「カリキュラム会議」においても、子ども一人ひとりについて話し合っている。発育等に関する新しい情報は、口頭や保育の業務支援ツールを活用して保護者に伝え、園と家庭で保育の方針の一貫性が保てるようにしている。		

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリー5の講評			
ICT化の取り組みを受け、子どもや保護者の個人情報保護を一層徹底させている 保育に必要な子ども・保護者の個人情報の取り扱いは、重要事項説明書に記載している。保育園が子ども・保護者の写真を利用する場合は肖像権に配慮して承認を得ることのほか、園行事等で保護者が写真撮影する際の留意点も伝えている。児童票等は鍵付きの書庫で保管し、個人名が記載された文書類はシュレッダー処理を原則にしている。職員、保育実習生、ボランティアとは守秘義務に関する誓約書を交わし、パソコンには職階に応じてアクセス制限を設けている。なお、保育の見える化のためICT化を進めるなかで、保護者ごとにアカウントを設定している。 子どもの羞恥心に配慮した保育を実践している おむつ交換は、他児から見えない乳児室内のコーナーで行っている。幼児が排泄に失敗した際はさりげなく対応し、当該児のプライドにも配慮している。園が適切な環境づくりを行うなかで子どもの羞恥心が育つように、プール遊び前後にはラップタオルを活用し、肌の露出をできるだけ避けるよう子どもに促している。また、看護師や保育士は男女の体のしくみ、プライバシーゾーンについてなど、応答のなかでわかりやすく説明している。なお、子どもが不必要に「女の子らしさ」「男の子らしさ」を意識しないよう、持ち物の色などは規制しないようにしている。 子どもの持つ権利については職員間で常に学び合い、その意識を向上させている 保育士は子ども一人ひとりの気持ちを受けとめ、安定感を持って園生活が送れるように支援している。子どもや保護者の価値観等に寄り添い、最善の保育のあり方を常に保育士間で協議している。今年度は「不適切対応ゼロ」を目指して取り組んでいる。具体的には、園内外の研修に参加し、そこで得た資料に基づき伝達研修を行い、アンケートによる職員の内省の機会づくりなど多様な方法で子どもの権利について学び合い、意識の向上を図っている。保育対応が難しい子どもでは、巡回指導や保育コーディネーターから得た助言・指導を保育場面に生かしている。			

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 2/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(○●●)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(○●)		
評価	標準項目	
☐ あり ☒ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリ-6の講評		
事業所業務の水準を確保するため、方針を明確化したマニュアルを整備するよう期待する 社会福祉法人の使命・行動規範を示した「コンプライアンスマニュアル」「虐待防止マニュアル」のほか、安全性確保の視点から「保育中・散歩・園外保育・午睡中・食事や送迎に関して」等のマニュアルを作成しているが、マニュアルの綴りの状態からも、活用頻度が高くないことが推測できる。見直しの基準・時期も明確ではない。今年度から主任もフロアごとに保育現場に入るなど、子どもへの対応は適切に実施されている。新人職員は先輩職員によるOJTを中心に学んでいるが、保育の場面ごとに方針を明確に文書化したマニュアルを整備するよう期待する。 サービスの改善に向けて、職員や保護者の意向を尊重する方針である 今年度は、保育のさらなる充実を図り、職員の働きやすい職場づくりを目指し、園長を中心に様々な改善に取り組んできた。改善にあたり、園長は職員・保護者の意見を生かす方針であり、職員に対しても活発な意見を求めている。職員会議、リーダー会議を中心に、日常業務や園行事の準備・開催方法のあり方を検討し、安全性を優先しつつ、職員・保護者の負担軽減を図っている。ICT化もその一例である。保護者支援も当園の重要な任務の一つである。保護者からのさまざまな意見を把握する機会である保護者会も年1回から年2回の開催に増やす予定である。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている			○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している			○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している			○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している			○非該当
評価項目1の講評				
全体的な子どもの姿を把握し、子ども自ら遊びたいと思える環境となるよう工夫している 当園では保育理念を「一人ひとりの発達と個性を大切に、生きる根っこを育みます」と定め、全体的な子どもの姿を「児童票」「家庭状況表」「個人別指導計画」「連絡帳」等から把握している。子どもの興味や発達に合わせた保育計画を立てることで、子ども一人ひとりの発達や生活環境に配慮した保育につなげている。5歳児の部屋には「お楽しみ会」の実施後も子どもの興味に合わせて繰り返し遊び、楽しんだ様子が残されていた。幼児クラスの各保育室には金魚の水槽やカブトムシの飼育箱を置き、子ども自ら興味・関心を持てるように環境を工夫している。 乳児クラス、幼児クラスで異年齢交流の場を設け、ダイナミックな遊びを楽しんでいる 園の保育形態は、基本的には乳児(0～2歳児)、幼児(3～5歳児)の年齢別保育である。1～2歳児においては、月齢の前・後半で2クラスに分けて保育を行い、それぞれが落ち着いて生活できるよう部屋を区切り、安心できる環境を整えている。乳児異年齢交流保育の「にこにこタイム」、幼児異年齢交流の「みんなで遊ぼう会」を開催し、散歩、リズム遊び、クッキング等を行って、遊んでもらったり世話をしてもらったりするなど、年齢を超えた交流の機会を設けている。これは、合同保育を生かしたダイナミックな遊びを楽しむことにもつながっている。 巡回指導により、子どもの特性に応じた援助や小学校への意識を高める活動を行っている 特別な配慮が必要な子どもに対しては、自治体からの派遣による定期的な巡回指導がある。専門講師の指導を受け、個別の指導計画を作成し、子どもの特性に応じた援助を行う。集団のなかで他の子どもとの交流を持ちながら育ちを促し、共に成長できるような取り組みにつなげている。5歳児の小学校への円滑な移行を目指し、絵本を読んだり、板書をする時間をつくったり、小学生と一緒に公園の花壇の手入れや音楽会に参加するなどの交流を図りながら、小学校への意識を高める活動を行っている。小学校の教員も、入学予定の子どもの見学で当園に来ている。				

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
登園時の子どもの健康状態を丁寧に観察し、連絡事項等は当番ノートに記載している 登園時は、子どもの健康状態を視診、触診し、保護者からも聞き取って確認している。それらの情報を当番ノート、業務日誌に記載し、担当者引き継ぐ。職員間では、他のクラスの小さなエピソードも口頭で連絡し合い、情報共有している。乳児クラスでは、保育業務支援ツールの「連絡帳」に食事、睡眠、排泄等について家庭と園が記載し合い、保育に活用している。子どもの一日の様子は、個別に配信するとともに、降園時にも口頭で伝えている。幼児クラスの保育活動の様子は、クラスごとに配信するとともに、各クラス前のホワイトボードでも伝えている。 子どもの発達に応じて「ねらい」を定め、基本的な生活習慣が身につくように支援している 子どもが基本的な生活習慣を獲得できるよう、発達段階に応じた「ねらい」を指導計画に定めている。低年齢児では、一人ひとりの生理的欲求を満たして生活リズムが形成されるようにかかわり、年齢が上がるにつれて基本的な生活習慣を知り、自ら行えるように援助している。2歳まで、トイレは個室とせず、危険のないように見守る。幼児のトイレは個室とし、使い方を伝え、自ら生活習慣を身につけられるように支援している。保護者と情報共有した上で、子どもの発達状況に応じて食育やトイレトレーニングを行いながら、個別の相談にも応じている。 休息は、子どもの状況に合わせて、時間の調節や空間の工夫をしている 休息(昼寝を含む)は、昼食後に0～5歳児のいずれでも設定している(5歳児の昼寝は徐々に切り上げ、運動会過ぎにはなくす)。ただし、午睡中に早く起きてしまう子どもや眠れない子どもに合わせて時間を調節したり、絵本コーナーなどを使って静かに遊んだり、休んだりできる空間づくりを工夫している。子どもの様子は降園時に保護者一人ひとりに口頭で直接伝えるが、保護者会での「子どもの様子をもっと伝えてほしい」という意見に対応して保育業務支援ツールの保育ドキュメンテーション機能を使い、写真付きで子どもの様子を配信している。			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
子どもが主体的に遊べる保育環境と、遊び込める空間を確保することへの配慮がある 保育目標の「心も体も元気な子ども」のもとに「健康で元氣よく遊ぶ子ども、自分で考えて行動する子ども」を掲げている。5歳児の保育室では、子どもの興味・関心に合わせて玩具を自分で自由に選び、出し入れできる環境を整えている。空き箱などの廃材と一緒に、はさみ、のり、セロテープを用意して、子どもが自分のイメージを自由に表現できるように配慮している。また、1歳児の保育室では「ままごとコーナー」に保育者の手づくりのバッグやスカート等を置き、衝立には可愛い布カバーを掛けて遊び込める空間を確保し、遊びを広げる工夫がされている。 全園児で「園歌」を歌うことが、団結や子どもの生活を豊かにする展開につながっている 乳児では、わかりやすい言葉を使ったり、オウム返しに具体的な情報を加えるなどして応答的なやり取りを行う。子どもの発達に合わせた言葉のやり取りを心がけ、言葉に対する感覚を養えるように配慮している。幼児クラスでは、職員によるリズム遊びで友だちと一緒に体を動かしたり、季節の歌を歌ったり、簡単な曲に合わせてリズム打ちをして楽しんでいる。就学祝い会、運動会等の行事はもちろん、散歩などさまざまな場面で全園児で「園歌」を歌うことも多く、日常の保育で彩りと団結力を育み、子どもの生活が豊かに展開される取り組みにつながっている。 子どもが決まりの大切さに気づけるように、年齢に応じた約束の伝え方に配慮している 当園では、異年齢児交流保育を積極的に行っている。乳児組と幼児組と一緒に散歩に出かけたり、保育室や園庭で遊んでもらったり、世話をしてもらったりするなどのかわりを持つ。3歳児からは、外部講師によるマット運動、鉄棒、跳び箱などの体操を楽しみ、4～5歳児ではサッカー教室、リズム遊びなどで体力づくりと社会性を育むことに努めている。なお、リズム遊びには3歳児から参加している。なお、脱いだ服は全園児で統一して「育カゴ」に入れるなど、日々の生活の流れ、片付け、散歩での決まりごとを年齢ごとに整え、日常生活に生かしている。			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○非該当
評価項目4の講評			
子どもが無理なく行事を楽しめるよう、計画的に取り組んでいる 行事は日常の保育の延長線上にあるものと捉え、子どもが無理なく楽しめるよう、計画的に取り組んでいる。春の遠足は、子どもの体調を考えた末、中止とした。芋掘り遠足に関しては、観光バスをチャーターして実施してきたが、昨今の運転手不足問題も重なってバスの手配ができなかったこともあり、中止とした。保育のねらいを「子どもが自らの手で芋の苗を植え、水やりし、成長していく過程を見守りながら秋にみんなで収穫すること」に変更し取り組んでいる。行事を精査することで、子どもが興味関心を持って自ら進んで取り組める工夫につながっている。 行事等には全園児が発達に応じてかわかり、職員は児の意欲を引き出すよう工夫している 皆で協力し、やり遂げる喜びを味わえる行事として、夏祭り、運動会、大きくなったね会を実施している。全園児が発達に応じてかわかり、楽しんでいる。夏祭りのねらいは「自分たちが作った商品が並ぶことを喜び、楽しみながら保護者や友だちと一緒に夏祭りに参加すること」としている。小学校の体育館を借りて神輿や盆踊りを行い、緑日には卒園児もボランティアとして参加し、交流している。4月から幼児で話し合い、商品づくりは5月から始めるなど、準備作業は計画的に日常の保育に落とし込み、子どもが意欲的に行事に取り組むための工夫をしている。 行事日程への満足度は高く、日常の保育に変化と潤いをもたらすように見直している 例年、行事予定表は年度初めに保護者に配布し、行事が近づく頃に詳細を連絡している。保護者アンケート調査の「行事の日程は参加しやすいよう配慮されているか」の質問項目では満足度が高く、保護者の状況に配慮した日程が設定されている。行事は、日常の保育に変化と潤いをもたらすことを目的に実施し、現在は一つひとつの行事の見直しを行っている。見直しの内容については、園長から全クラスの保護者会で説明しているが「十分な理解が得られていない」という意見もある。保護者からの理解と協力を得るために、さらなる取り組みの検討が望まれる。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○非該当
評価項目5の講評			
異年齢交流保育は、子どもが安心して過ごせるようにするための取り組みになっている 「全体的な計画」に長時間保育を位置づけ、保護者の就労支援に努めている。異年齢児のかかわりを大切にしながら、一人ひとりの様子や成長に合わせて安全に保育を行っている。普段から乳児組と幼児組と一緒に散歩に行ったり、遊んでもらったりするなど、異年齢交流保育を積極的に実施している。そのため、保育形態が変化するなかでも、子どもが安心して過ごすための取り組みにつながっている。保護者からの急な延長保育の申し出にも柔軟に対応している。現状では、異年齢児の満1歳以上から5歳児までの10名前後が異年齢交流保育を毎日利用している。 保育時間の長い子どものため、落ち着ける空間づくりに努めている 延長保育の子どもの情報は、保育業務支援ツール内の情報や睡眠記録によって引き継がれている。保育者2名を配置し、子どもが安心できるように触れ合い、言葉をかけ、子どもの気持ちに寄り添って過ごすようにしている。1時間延長の子どもには補食を、2時間延長の場合は予約により夕食を提供する。テーブルや椅子を減らして部屋を広く使用し、年齢に応じた玩具を揃え、子どもが楽しめるよう工夫している。乳児ではマット、布団などを使用し、落ち着ける空間づくりに努めている。長時間保育の状況は延長保育日誌に記載され、翌日の保育に引き継がれる。			

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○非該当
評価項目6の講評			
調理や盛り合わせを工夫し、子どもたちが楽しい雰囲気の中で食べられるように配慮している 当園は「日本人の食事摂取基準」に基づき、栄養士が園独自の献立をつくり、給食を提供している。乳児では、保育者に見守られた安心できる環境のなかで、一人ひとりの発達・発育を考慮しながら離乳食を進めている。幼児では、落ち着いた雰囲気の中で、食べる速さ、終わりの時間、声の大きさに気をつけながら、楽しく食事がとれるように工夫している。5歳児になるとトレイを使ったおやつ配膳を始め、その後は給食を自分で運ぶようにしている。行事の際には、食材の切り方を星形に型抜きするなど、子どもが楽しく食事ができるための工夫をしている。 栄養士はクラスを巡回して子どもの食事の様子を把握し、献立の改善等につなげている 栄養士はクラスを巡回し、子どもの食事の様子を把握している。毎月の給食会議には、栄養士、園長、保育者、調理担当者が集まり、子どもの喫食状況を確認した上で共有し、献立の改善等につなげている。保護者には「給食だより」を毎月配布し、献立表や子どもの好きなメニューのつくり方、料理の歴史などを知らせている。食物アレルギーを持つ子どもについては、医師の診断に基づく「生活管理指導表」を使って栄養士、看護師、保育士が保護者と面談し、対応する。ナッツ、卵は給食の食材として使用していないため、現在は全園児が同じ給食を食べている。 食育年間計画に基づき、野菜栽培、クッキングなど「食に関する取り組み」を行っている 「食育年間計画」に基づき、年齢に合った食育に取り組んでいる。園庭では、3歳児はピーマン、ニンジン、4歳児はナス、オクラを、5歳児はサツマイモ、キュウリなどの夏野菜を、皆で水やりをしながら育てている。収穫後は子ども自ら調理室に持って行き、給食時に提供してもらえるよう依頼している。1歳児は食べる意欲を育てることから始め、5歳児では食事をつくってくれた人への感謝の気持ちや食べ物を大切にすることをねらいとしている。幼児は、栄養士から3色食品群や食材の話などを聞き、食育を推進するための取り組みにつなげている。			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
評価項目7の講評			
看護師が巡回して子どもの視診を行い、園医も来園して子どもの健康を見守っている 看護師は毎朝全クラスを巡回し、子どもの視診を行っている。体調確認のほか、病欠・早退児等の子どもの健康状態を把握し、保育業務支援ツールの保健日誌に記録している。保育中の体調不良、けが等は保育者から保護者に伝え、同席した看護師が処置、経過、今後の注意点などの必要事項を直接説明している。定期健診は、0歳児は園医が毎月来園して内科健診を行い、1歳児以上では年2回実施し、子どもの体調変化に迅速に対応している。歯科検診は自治体の歯科医師会から派遣された歯科医師が年1回行う。今年度から4～5歳児では視力検査を行っている。 年間保健計画のもと、子どもが健康や安全に関心を持てるように取り組んでいる 看護師は「年間保健計画」を立案し、子どもの健康および発育・発達状況を継続して定期的に把握している。法人の看護師会で得た情報に基づき、職員会議で承認を得て、取り組みを開始する。保健指導の一つである手洗い指導は2歳児から始め、幼児にはプライベートゾーンの話をして「自分の体は大事なことで、人に見せないこと」等を伝えている。5歳児に対しては、いのちの話で「自分は大事な存在であり、愛されている存在であること」を伝え、自己肯定感を育てている。保健指導の話は「ほけん便り」に掲載し、保護者とも共有した上で実践している。 医療的ケアを要する子どもの健康状況を把握するとともに、職員研修を実施している 全園児の健康状況は看護師が把握し、園で対応が必要な場合には、かかりつけ医師と連携している。職員に対しては、園内研修で「救急救命研修とAEDの取り扱い」「けが等への対応方法」「感染症対応」などの基本的な事項を伝えている。保育中に緊急な行動(判断)に迫られたときは「アクションカード」を用い、①反応の確認、②コード・ブルーなどの役割を定め、救急の場で迅速な行動ができるようにしている。乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防のため、午睡時の睡眠チェックは「0歳児は5分おきに1回」「1歳児は10分に1回」を徹底している。			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
保護者の園内立ち入りを可能とし、保護者と共通認識が得られるように取り組んでいる 全体的な計画に「保護者との信頼関係を築きながら保護者の気持ちを受け止め、子どもの成長の喜びを共有すると共に、保護者の子育て力を育成する」と明記し、保護者支援に努めている。保護者が参加する行事として「夏祭り」「運動会」などを設け、子どもの成長を共に喜びながら、保護者と保育園の信頼関係に基づいた「共に育ちあう」関係づくりを進めている。保護者の園内立ち入りを可能とし、子どもがどのような部屋でどのような玩具を使って一日を過ごしているのかを保護者が知ることができるようにし、保護者との共通認識が得られるようにしている。 保育業務支援ツールを活用した情報配信で、保護者がいつでも見られるよう工夫している 当園では、保育業務支援ツールによる情報配信を進めている。ツールによって子育てに関する情報提供や園の活動の報告を行い、ホームページからも見られるようにしている。園だより、保健だより、給食だより、クラスだより等の重要な連絡事項も配信し、保護者がいつでも見られるように工夫するとともに、玄関にも掲示している。園の行事、方針、変更点、準備物等の通知も、ツールを活用し、保護者にすぐ伝えられるようにしている。重要事項の報告に関しては、保護者と対面して直接伝えることとし、どの職員が聞かれてもわかるように引き継いでいる。 急な保育の利用や保護者の個々の事情にも配慮して支援を実施している 保護者の就労状況や子育ての事情は、入園時の面談、児童票、業務支援ツールの連絡帳、登降園時の対話等から把握し、できるだけ柔軟な支援を心がけている。時間外スポット保育は月曜日から金曜日まで受け入れ可能で、急な仕事の都合や電車の遅延などの際に、電話での利用時間変更にも柔軟に対応している。月極め延長保育は満1歳以上の子どもを対象とし、出産を控えた保護者については2～3階にある保育室の子どもを玄関まで送り迎えするなど、保護者の立場に配慮した対応を行っている。このように、保護者の個々の事情に配慮した支援が実施されている。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
花壇づくり、職場体験、絵本の交換会などで、地域との交流の機会を持っている 法人の理念である「地域に開かれ、愛され、信頼される」を基盤に「地域との共生、地域との連携」を事業の柱の一つとしている。近隣小学校の小学生と年長児と一緒に公園の花壇づくりや水やりを行うなど、交流の機会をつくっている。中学生の職場体験や高校生を夏のボランティアとして受け入れ、子どもたちと出会い、交流する場としている。月1回、絵本交換会の「いわぶちBookSwap」を開催し、子どもと地域との交流を広げている。地域イベントの2つの祭りに卒園児を受け持った職員が率先して参加することで、地域交流の機会を確保している。 地域子育て支援事業として支援室を設けて、地域の子育て家庭への援助に努めている 当園では、地域子育て支援事業「すくすく」として支援室を設けている。在宅の子育て家庭を対象に毎月「すくすく」の事業の支援室を開き、保育士や園児とかかわりを持ちながら遊ぶ保育体験や保健指導、栄養指導、保育講座を実施している。さらに、週2回、支援室を解放する「ニコニコ広場」や「一時保育」を行い、地域の子育て家庭への援助に努めている。子育て中の父親・母親を対象に「離乳食相談会＆試食会」を設け、離乳食の進め方や食材の形態(硬さや大きさ)などの悩み、困りごとなどを栄養士、保育士、保護者同士で情報交換する機会としている。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	ICTの活用により、保護者・職員間の情報共有が深められている	
内容①	保育活動の様子は、乳児クラスでは連絡帳を使用し、幼児の各クラスでは保育業務支援ツールを活用して保護者に配信している。この方法により、保護者への連絡漏れが防げるようになった。保護者の都合による緊急の登降園時間の変更、子どもの体調変化による休園等の連絡にも活用している。なお、このツールの活用は、各種帳票類の見直しや様式の変更時から着手した。その過程では操作に不慣れな職員もいて時間を要したが、現在は保護者との情報共有、事業所内の帳票類の見直しも進み、業務の合理化に役立っている。成果は職員自己評価からもうかがえる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル②	法人の理念のもとに地域と関わる機会を設け、理解を得るための取り組みにつなげている	
内容②	法人の理念のもと、地域と関わる機会を積極的に設けている。職員は地域の祭りに参加し、小学校や中学校を借りて夏祭りや「大きくなったね会」等の大規模な行事を開催している。全体的な計画に地域に対する説明責任を明記し、園だよりを近隣に配布している。また、月1回「絵本の交換会」を開催し、卒園児、地域の読み聞かせボランティア、地域の子どもたちとの交流の機会づくりや遊びの場として定着を図っている。このような地域に開かれた子育て支援活動は、子どもと地域との交流を深め、保育園や子どもに対する理解を広める取り組みになっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	当園では法人が体系化している研修計画を活用しつつ独自の研修計画を定め、保育士キャリアアップ研修への参加も積極的に促している
	内容	研修計画は法人、各エリア、各事業所、法人内の保育園共通などと重層的に定めている。法人は年間教育研修計画において法人主催研修、資格取得等研修、外部研究会、エリア開催の区分を設け、階層別、法令遵守、資格取得、福祉分野ごとのテーマ等に体系化し、eラーニングも導入している。法人内の保育園では法人保育園教育研修計画を定め、職層別研修(新任保育士、中堅職員、指導者層)、東京・米子地区合同研修、園内外の専門職研修を実施している。当園はそれらを活用しつつ独自の研修計画を定め、保育士キャリアアップ研修への参加も促進している。
2	タイトル	従前から業務の効率化が課題であったが、園長のリーダーシップのもと、職員体制の整備、ICT化、行事の実施方法の変更などに努めている
	内容	当園では以前から残業が多く、休暇・休憩が取りにくいという声もあり、業務の効率化が課題であったが、昨年度に着任した園長のリーダーシップのもと、その見直しに積極的に取り組んでいる。今年度は主任をクラスごとに配置して保育体制を整備し、職員が相談しやすい環境づくりを進めるとともに、ICT化の継続的な推進や、行事の準備・実施方法の変更などの工夫に努めている。今回の第三者評価の職員自己評価では、リーダーの配置、行事の見直し、休暇取得や残業に関する意識の変化を評価する意見が複数あり、職員が取り組みの成果を実感しつつある。
3	タイトル	当園は保育理念を「一生きる根っこを育みます」と掲げ、探索活動を楽しんだり、体力づくりを促進するための戸外活動を充実させている
	内容	当園の保育理念は「一人ひとりの発達と個性を大切に、生きる根っこを育む」ことである。保育目標の一つに「健康で元よく遊ぶ子ども」を掲げ、天気の良い日には毎日戸外活動を行っている。園庭で行う泥遊びや散歩などを通じて、乳児は自然に触れながら探索活動を楽しみ、幼児は季節ごとの自然を体感しつつ、仲間と遊ぶことで達成感や充実感を味わい、足腰を鍛えるなどの体力づくりをしている。園外保育では交通規則を学ぶ機会を提供し、児の安全を最優先にした活動を進めている。それらによって、子どもたちの健全な成長と活動の充実を図っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	法人および園内に会議体を整備しているものの、それらの役割・目的や参加者等について職員に周知したり、共有する取り組みが十分ではない
	内容	法人は、法人連絡会議、北東京エリア戦略会議等を整備し、意思決定内容の周知と共有に努めている。一方、園内では園長・副園長・主任会議や職員会議で法人の決定を共有し、園内の諸課題を検討しているが、これら会議体の役割・目的や参加者等について職員に周知できていない。一部の職員の理解にとどまっている。また、園内の会議体は「新年度会議内容」にまとめて明示しているが、その内容は限定的である。正職員・非常勤職員を問わず、法人と園内の会議体について適切に周知することは、組織の方向性や取り組みを共有する際の基盤として重要である。
2	タイトル	保育園が事業所としてこれまでの運営方針・方法を変更させるときには、保護者に対して慎重かつ丁寧に説明することが求められる
	内容	当園では「行事が多い」「残業が多い」「職員の休憩時間が確保されていない」等が課題としてあげられていた。そのなかでコロナ禍により縮小していた行事について見直したところ、開始した背景や理由が不明確なものもあったため、行事の必要性を検討した。これに対する職員自己評価は「子どもと向き合える時間が確保できた」など肯定的であった。一方で、保護者からは「行事が減った」「内容が変更された」等の不満も寄せられている。行事などの運営方針に関わる変更は、保護者に慎重に繰り返して説明することが求められる。取り組みの強化を期待する。
3	タイトル	当園の保育方針を意識した保育の実践のためにも、マニュアル類についてさらなる充実を図ることを期待する
	内容	当園の保育方針の実現を目指し、今年度から業務改善のため各フロアに主任を配置し、保育内容の一層の充実を図っている。しかし、新人保育士が増えるなかで、保育場面ごとのマニュアル・手順書が不足している。また、虐待防止や戸外活動等の安全性に関する手順書は整備されているものの、自治体など他機関が配布する資料であり、園の独自性に乏しい。園長をはじめリーダー層はマニュアル類の整備状況を課題として認識し、必要度の高い順に作成していく予定である。マニュアル類の作成にあたっては、常に見直し・改善の方針で臨むことを期待する。



40

41

42

43